



2学期の努力と成長を 次の目標に

種子島の12月の平均風速は7.3m/s。(2009~2011気象庁統計より)奄美大島(3.3m/s), 那覇(5.3m/s), 石垣島(5.3m/s)よりも, ずっと強いことを知りました。どこよりも強い風が吹く種子島にあって, この地の諺である「風に向かって立つ」の重みが更に増しました。

さて, 一昨日の持久走大会でも, ご協力・ご声援をいただきありがとうございました。新記録や各自の記録更新もあり, 子供たちがよく頑張ったことをうれしく思います。

ボリュームたっぷりの2学期でした。苦手なこともやらねばならない2学期でした。各種行事の結果は, 喜びと新たなやる気も生まれました。任されたことをやり遂げる責任感や協力性の高まりも見られました。「行事を成長の機会に」できたように思います。

また, 学習においては, 始業式で話した「わからないことやできないことをそのままにせず, できるまでやること」や「根拠を明らかにして自分の考えを述べる力を磨く」ことに取り組みました。9月からの約100日間を粘り強く, 誠実に取り組んできた子供たちは確かに変容していることがうかがえます。終業式日には, 通知表を見ながら, 努力の過程と成果や次の目標についても話し合っていたいただければと思います。

校長 岡留 祐宏



人権集会での感想発表

「自分のことと同じくらい相手のことを…」 ～校内人権旬間～

福島県から避難した児童生徒が, 悲惨ないじめに苦しんでいることが報道されました。学校側の認識や対応の在り方が事態を悪化させたことに批判が集中しています。

今年, 11月に県人権同和教育課職員による子供たちへの「人権学習会」を行いました。12月1日から10日までを人権旬間の取組も行いましたが, 避難者いじめなどの事例をよそ事にしないために, 改めて次のことに努めなければと思います。

1 全ての人の人権感覚を磨くこと ⇒ (教訓: まずは, 教師自身が)

7日の校内人権集会では, 「自分のことを大切に思うのと同じくらい相手のことを思う」とか, 「相手の気持ちをよく考えてから話そうと思う」などの発表がありました。どちらも低学年の子供たちの言葉です。自分の体験をこんな言葉で表現してくれました。「人権がもつ価値を直感的・共感的に受け止める感覚を人権感覚」と呼んでいます。教師の人権感覚が問われました。自分の人権感覚を問い直すべし, です。

2 自分と他人の人権を守る実践行動ができること ⇒ (教訓: 自分に偏らない判断を)

様々な場面や状況下でも, 自分も他人も共に大切にされる態度や行動ができるかが求められます。人権感覚を磨き続けるとともに, 社会的規範やルールを踏まえて, 「認めるべきを認め, 正すべきは正す」という適正な判断力を高めることが必要だと思えます。自分の立場に「偏らない」ことを肝に銘じたい, と思えます。

3 学校・家庭・地域の情報連携～行動連携を ⇒ (教訓: 職員室から外への発信)

いじめなどの人権を脅かす兆候を見逃さないためにも, 全職員の連携はもちろんですが, 問題解決のためには, 子供と担任・職員間の対応に留まることなく, 保護者との連携・相談, 保護者間の話し合いを適宜行うことや, 地域・関係機関との連携も視野に入れて対応したいと思います。職員室では, いつも子供たちの成長の姿や気になる様子が語られています。

「職員室から外へ」に努めたいと思えます。